

たきおっ子

～一人一人が輝き、「笑顔」あふれる滝尾小～

御船町立滝尾小学校 学校だより

第21号 令和2年9月4日（金）

たきおっ子の生活信条：

「たのしく、きたえて、おおらかに」

学級数7、在籍児童数：55名

文責：（校長）河地浩太郎

酷暑の中 ありがとうございます

～PTA美化作業・リサイクル活動～



先週の日曜日には、朝7:00から美化作業、そして8:30からリサイクル活動をしていただきました。参加していただきました保護者やあゆみ会の皆様、そして資源物を提供していただきました地域の皆様には、大変お世話になりました。おかげで学校の環境も大変よくなりました。また、リサイクル活動の益金34,371円は、PTA活動や教育活動に有効に活用させていただきます。



【きれいになった運動場横の擁壁】



【回収されるたくさんのアルミ缶】

自己表現力を伸ばす（その2）「話し方・聞き方 あいうえお」

滝尾小では、子どもたちの表現する力を高めるための日常的な指導として、右のような話し方と聞き方の指導をしています。すべてがすぐにできるわけではありませんが、できるところからやっています。この取組を通して、自己表現力とコミュニケーション力を高めていきます。ご家庭でも、お子さんとの会話の際、気掛けていただけたらと思います。

「聞き方」

あ…あいてをみて
い…いっしょうけんめい
う…うなずきながら
え…えがおで
お…おわりまで
きこう



「話し方」

あ…あいてをみて
い…いっしょうけんめい
う…うんと口をあけて
え…えがおで
お…おわりまで
いなことばで話す

読書の秋

図書委員会では、毎年、その月にどれだけ図書の貸し出しがあったのか、その冊数を数えて記録しています。

右の表は、平成29年度から令和2年度までの、8月の段階での貸し出し冊数です。（H30年度は、9月も含む）

これを見てみると、年々、子どもたちの読書量が増えていることがわかります。「読書は心の泉」ともいいます。読書で心を豊かにしていきましょう。

年度	貸出冊数(学校全体)
R 2	3,152冊
R 1	2,348
H30	2,657
H29	1,988



人権を大切にしましょう

新型コロナウイルスの流行がなかなか下火にならず、マスクや手指消毒が欠かせない毎日です。一刻も早いワクチンの開発等が待たれるところです。

このような社会的に不安な状態の中で、コロナウイルスに感染した人や家族、お店、あるいは医療従事者等に対する誹謗・中傷が多く発生しています。

このような状況を受け、国（文部科学大臣）から、裏面のようないメッセージが出されています。また、子どもたちにも別紙のようないメッセージが出されています。

差別的な言動は、心だんはしなくても、自分が不安になったり危機的な状況になると起こしがちだと思います。自分自身を今一度振り返りたいと思います。

歳時記（二百十日）

立春から数えて、210日目を「二百十日」といいます。例年9月1日頃ですが、今年は8月31日でした。「二百十日」頃は米の開花時期と重なり、台風などで大風が吹くと実りが悪くなります。また、梨や葡萄、栗などの秋の果実にも被害が出ます。今日では、詳細な天気予報で、いつ台風が来るかわかりますが、昔は、このような言い方で注意を促していたようです。

学力調査結果（速報その2 社会・理科） 4～6年生が実施しました。

教科/領域	関心・意欲	思考・判断	技能	知識・理解	教科/領域	関心・意欲	思考・判断	技能	知識・理解
社会(本校)	98.7	100.6	102.2	100.8	理科(本校)	127.2	104.0	99.7	103.3
101.0	-1.3	+0.6	+2.2	+0.8	103.2	+27.2	+4.0	-0.3	+3.3



※全国の正答率を100とした場合の本校の結果です。課題については、今後、復習等を行います。

保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができているのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多くと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思います。

令和二年八月
文部科学大臣 萩生田 光一

